

---

# 自動車工場体験記

NATA

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

自動車工場体験記

### 【Nコード】

N2827M

### 【作者名】

NATA

### 【あらすじ】

2年前に新卒の正社員で工場派遣にいた時の話です。

## (前書き)

学生の皆さん、工場ではどんなところを書いてみました。参考にしてください。

2年前の夏、私は内定をもらいました。

場所は派遣会社の正社員。仕事内容は工場の派遣。不器用な自分に工場の仕事が出来るだろうかと不安でしたが、ここしか受かりませんでした。けれど2、3年後に異動がある、だから2、3年頑張れば自分の行きたい部署に行ける資格を生かして経理や総務に行けるかもしれない。その間、我慢して頑張れば良い。そう思っていた。そして4月。私はその会社に就職した。

最初に入社式を行なった。一週間程度の研修。その間の宿泊先などの説明。さらに社長の一言があった。特に気構えず、黙って聞いていた。社長の話は長かった。校長先生とかもよく話が長くなる。上に立つ人ほど長いのかなと頭の中で思った。

社長の話はひとつも覚えてない。いやひとつだけ覚えている。社長の最後の一言。

「当社は離職率が50%を超えています。しかし君たちは頑張って立派な社会人になってほしい」

この離職率50%は気になったが、しかし自分は頑張れると根拠のない自信があった。

それから一週間程度の研修を行ない、借り上げのアパートに引っ越した。派遣先の工場の人員整理の関係で2週間の休みがあった。その間、住民票を移したり、ネット繋いだりと細々な手続きをした。夜には同僚と一緒に酒を飲んだりもした。馬鹿な話が出来て楽しかった。

その後、工場に入り、さらに1週間ほどの研修。内容はその工場で作っている製品と実際の業務の練習。というのもその工場では小さな部品を流し台で一度組み立て薬品に付ける。付け終わったらそれをばらして箱づめする作業だか、その小さな部品がやかいだ。形はかまぼこの中を繰り抜いて外側の半円だけを残した物、大きさ

は手のひらの半分程度で滑りやすく落としてはいけないそれを素早く組み立てる。そしてばらす慣れるまで大変だったがなんとかあった。

そして現場に入るが職場の雰囲気は暗かった。みんな死んだ目をしてた。文章で説明するのが難しい。しいて言えば瞳に潤いはなく、黒目は全く動く事無く、ただ黙って何も無い空を見上げている。例え、晴れていようと雨が降っていようとただ空を見上げている。週末近くになれば首から肩をだらんとさせて死んだように動かなかった。その時の自分はそれがどういう意味なのかいまち理解できずにただ社会人として頑張るという意欲だけであまり考えなかった。

それから出勤の時には毎日挨拶した。しかし挨拶を返してくるのはおらず、うざいなと顔されて通りすがれてくばかりだった。

いちおう。挨拶は大事だと思っていたのでそんなことを気にせず、私は挨拶をした。

それから2、3ヶ月平穩に過ごした。だいたいは作業所の場所はいつも同じだがたまに場所が変わる。というのもも人の入れ替わりが激しく1週間経てば一人いなくなるのが当たり前だった。いちいち人の名前を覚える必要がないくらいだ。自分の場合だと作業内容はあまり変わらないが、製品を黒い粉を掛ける機械に投入する仕事。ただ粉はとて小さく空气中に舞う。マスクを付けなければ鼻が真っ黒になると言われたので試しにティッシュを鼻に突っ込んだら真っ黒になった。

ただこの仕事はとにかく暑い。よく薬の研究所にある真っ白な防護服を着てさらに黒い粉が入ると体に悪いのでマスクを着けますが、通気性が悪く、中にこもる。若干サウナ気味になり、息苦しさ暑苦しさ。作業服は毎日洗濯したいくらい汗が染み込む。いつもやっているところも汗だくになります、けれど一箇所に通風機があるためまだましでした。

けれど同僚と比べればましです。同僚は毎日70度の部屋で10

キロ以上の鉄骨をダツシユでかまどに運ぶ仕事です。かまどに行けば2、300度の熱風が襲い、本人曰く、ひげが焦げて作業服は汗の塩で真っ白になるそうです。その同僚も体を壊して4ヶ月くらいで辞めましたね。

そして会社を休まず仕事に出ましたが、毎日立ちっぱなしの単純作業、腰が痛み、尻から足までに電流がずっと流れるような痛みだった。あまり好きではなかったが仕事だと思い、我慢して仕事をやった。2、3年したら異動ができるそれが唯一の希望だった。

夏頃、自分は生産ラインを一つ任された。最初は心からやったと思った。頼られるていると感じたからだ。

けどすぐに後悔した。生産ラインを一つ任された事により、仕事が倍増した。元々この仕事は二人でやる。工場研修と話が被りますが、組み立てて機械に部品を投入する人とそれを取り出してばらす人。ただ組み立ての人は机に置いてある書類に作業中に色々とサインしなければいけない。細々として書く所が多く、秒単位で機械が動くのでわざわざ作業場から書類のある机を何往復しなければいけない。作る製品が入れ替わるたびにやるのでめんどくさい。

作業場に書類を置けば楽になるのだけれど作業場に置いとくと書類が汚れてしまったため、やはり机を何往復するしかない。距離はそんなにありません。せいぜい5メートル程度です。けれど作業を遅れてはいけないプレッシャーとさらに後輩に仕事を教えて仕事振りを確認する作業、自分すら数ヶ月程度なのに仕事を教える余裕はありません。中々上手くいかず、他の生産ラインからも色々と言われ、段々と疲れがたまり、ストレスも溜まっていきました。その辺りからトイレで胃液を吐くようになった。

それから疲れが酷くなり、肩から腰に重みを感じ始め、ずっと立ちっぱなしだから腰も痛い。その痛みを抑えるために自費で整骨院に行く。仕事をミスして少しでも遅れると隣のラインが文句言ってくる。疲れているから休みたいけどライン任されているから休日出勤しないといけない。物事全てが徐々に嫌になっていた。

そして決定的に仕事に対する熱意が消える出来事が起きた。

同僚からこの仕事真面目にやっても異動ないという事実を知らされた。本当なら派遣元の上司に事実確認しとくべきだったのだけれど当時はそんなことまで頭が回らなかつた。それがきつかけで仕事の熱意は口ウソクの火のようにふーと消えてしまいました。そしてもう一つあります。それは薬品の液体プール掃除の出来事の事。

当時、嫌いな先輩がいました。どんな人間か覚えてない。完全に消えている。けど嫌悪感だけが残っている。脳が忘れたいくらい嫌いだったんだと思う。名前は覚えているからR先輩にしときましよう。

その先輩に同僚と一緒に掃除を命じられ、することになったんですが、その掃除場所はQ8メッキのプールでした。そのプールにはQ8メッキという緑色の液体があるんですがそれに触れると火傷のような痛みがするから注意をするように言われ、危険な薬品として特に研修の時は耳がたこになるくらい言われました。

プールの中は本来Q8メッキでいっぱいなんですけど掃除の時はそれを抜きます。しかし、まだ底に液体が残っていました。

私は近くにあったホースを持ってきて水で洗い流してからプールに入ろうとしました。しかし、先輩がそのまま入れと言われ、底に液体がありますよと聞くとそれを無視してどこかに行ってしまった。ねちねちと文句言われたくないため、仕方なく、プールに入りました。一応、プールに液体がこびりついている事があるので作業着姿でゴム手袋を付けていきました。しかし、そのプールは液体を循環させるために色々な機材があるためごちゃごちゃしており、足元が安定しませんでした。

結果、足をすべらせ、瞬時に手で液体のある水たまりに手を付けました。頭の中で例え足を滑らしても手を付けば大丈夫と思っていました。だから大きく転ぶ事無く、瞬時に手が付けました。けれど手を付いた時、液体が跳ね、わずかに手首が肌を見せており、そこに液体がついてしまいました。

その瞬間に叫びました。抑えられない痛み。火傷した皮膚にさらに熱い油をかぶせたような痛み。それくらい痛かった。すぐに私は持ってきたホースで皮膚を冷やしました。幸い、アザは2カ月後には消えました。けれどアザが残っていた時はそれを見るたびに会社とそのR先輩を恨みましたね。今でも恨んでおりますが……

その後は疲れとストレスでやる気をなくし、体を壊して仕事を辞めました。けれどあのまま勤め上げても結果は変わらなかったと思います。派遣先がリーマンショックの影響で車が売れなくなり、派遣切りをしました。新卒の同僚も切られました。本当なら派遣元が新しいところを案内してくれるはずなのですが、それもなくそのまま解雇。派遣元の正社員だろうと関係なくです。就活ではみんなが使う就活サイトの子会社でも簡単にクビを切りますよ。（これ以上ヒントを出すとバレルので自重）

たまにもう少し粘って雇用保険を使って1年程度学校通えばよかったですかなと思うことがあります、その考えもむなしだけ。頭の中で体を壊して結局1年通えたかどうか怪しいと無理やり納得させています。

今は何もしていません。いわゆるニートです。将来が不安ですね。アルバイトも受かりません。アトピーもなつてしまったので汗を掻く仕事が出来なくなりました。無意識に首を掻きむして爪と首を血だらけにしたらそりゃ落ちますよね。ひぐらしの富竹状態。製造でも血が付いた手で商品に触るわけにはいきません。とりあえず事務のバイト探してますが受かりません。綺麗に落ちます。

とりあえず、今は区役所の就労支援の人に色々と話しながらバイトや就職の指導をもらってます。まあ就けるかどうか分かりませんが……これ以上書くと完全に愚痴になりますのでここいらで筆を止めさせてもらいます。後半辺りは愚痴ばくなってしまうことが勘弁してください。でわ失礼いたします。

(後書き)

一応、付け加えますが、工場が悪いんじゃないやなくてたまたまこの工場と私の相性が悪かっただけかもしれないですね。

実際、派遣会社の福利厚生はよかったですよ。家賃補助で4割負担してくれたり、会社に必要な資格の検定料を半分出してくれたり、休職のときに減額されていたとは言え8万のボーナスが出ましたし、休みも若干多かったですね。

ただ将来性を感じませんでした。『将来をリードする人材を育てる』という風に書いていましたが、しょせん派遣の単純作業。そんな人材に慣れる訳がありません。工場の班長も「ここに来たら終わりだな」と言う始末ですから、それに12月になれば必然的に解雇でしたし……

就職決まってる学生さん達、気を落とさないで今の時代、就職できないから自分は無能というわけじゃないよ。正社員というイスが少ないから仕方ないのよ。ここに日商簿記2級とFP取っている人間がニートしているんですから、

飯が食えなくなったらサンマと鶏肉が安くて良いよ。しょうゆとめんつゆがあれば味付けはなんとかなるよ。近所のおばちゃんにご飯をもらうのもありだよ(実際、もらってました。今はお菓子だけ……)

という訳で就活生の方、下手な企業に入らないように気を付けてね。焦って飛び込んだら病気になって働けなくなったら人生棒に振るから、気が向いたらまた会いましょう。

追伸。

レビューの返信が上手く出来ない誰か教えて!!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2827m/>

---

自動車工場体験記

2010年10月8日14時30分発行